

公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー

令和2年度 事業計画書

□ 基本方針

今年度は、これまでの継続事業に一層の磨き上げを行うとともに、中長期的視点から長野の良さが国内外に広く認知されるための確固たる基盤づくり（「住んでよし、訪れてよし」）に向けた事業展開に取り組んでいく重要な年であると位置付けております。

まず、「長野市観光振興計画」において重点地域に設定されている「善光寺界限」、「戸隠」、「松代」の各地域において検討されたアクションプランに基づく事業については、地域資源を最大限に活用するとともに、新たな魅力の創出と積極的な誘客に取り組んでまいります。

具体的には、長野市及び周辺地域が「目的地」として選択されるよう、新たな観光体験素材の発掘・開発による需要の創出、周辺地域を巻き込んだ広域観光ルートの形成や着地型商品の造成、そして、ホームページ、SNS等のWeb媒体を最大限活用した情報発信の強化に取り組んでまいります。

同時に、これまで以上に長野市を起点とした近郊周遊・滞在型観光を促していくことで、観光消費額の増大による地域経済の活性化の実現に向け事業を推進してまいります。

また、引き続き急増する訪日外国人旅行者（インバウンド）を観光の重要トレンドとして、交通の要である長野駅を広域観光ゲートウェイとした誘客活動に努めるとともに、長野市内及び周辺地域での滞在が促進されるようターゲットを明確にし、戦略的な計画の立案により事業を推進してまいります。

7年に一度の善光寺御開帳・戸隠神社式年大祭の令和3年開催を見据えながら、本年開催の東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年のワールドマスターズ関西、2022年の北京冬季オリンピック・パラリンピック、2023年の北陸新幹線敦賀延伸、2025年の日本国際博覧会（大阪・関西万博）と続く中で、これらの開催を好機と捉え、時機を逸しないよう事業を展開してまいります。

□ コンベンション事業

北陸新幹線の利便性を最大限に活用し、コンベンションを中心とした国内外のMICEの誘致・支援を強化してまいります。同時に、2025年に日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されることにより地方開催となるコンベンションに対して、前広な誘致活動を展開してまいります。

コンベンション誘致の目標人数は前年度と同様の11万人と定め、首都圏をはじめ北陸、中京及び近畿圏を中心とした主催団体等に対し、長野市開催に向け積極的な誘致活動を実施してまいります。

□ 観光振興事業

前年度同様に大型イベントや観光誘客キャンペーン等が開催されないものの、令和3年開催の善光寺御開帳・戸隠神社式年大祭に向けて効率的な誘客宣伝を展開しつつ、これまでに構築してきた各種体験メニュー等の更なる磨き上げを図り、季節や地域の特色を活かした着地型旅行商品の拡充と効果的な観光宣伝活動を実施してまいります。

また、旅行者目線による新たな魅力の創出にも注力し、長野市のみならず、周辺も含めた地域全体の来訪者数の増大と来訪満足度の向上並びに滞在時間の延長等で、宿泊拡大に繋がる観光誘客を推進してまいります。

I コンベンション事業

重点目標

- 1 中小規模コンベンションに対する誘致・支援の強化及び令和7年に開催される日本国際博覧会(大阪・関西万博)に伴うコンベンションの誘致強化
- 2 国際スポーツ大会及び全国的スポーツ大会等の計画的な誘致推進
- 3 年間を通じた合宿誘致の推進
- 4 海外 M I C E * の誘致

※M I C Eとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベント等の総称

重点事業

- 1 中小規模のコンベンションの新規誘致に的を絞り、首都圏の学会・協会等の会議主催団体及び旅行会社等へ積極的な誘致活動を展開するとともに、北陸、中京及び近畿圏での誘致活動を強化する。
なお、大規模コンベンションは全国で順番に開催されている状況であることから、引き続き情報収集を行い、長期的計画による継続的な訪問活動を行う。併せて日本国際博覧会の開催により地方開催となるコンベンションに対して、前広な誘致活動を行う。

- (1) 高速交通網の利便性を活かし、北陸、中京及び近畿圏での誘致活動を強化するとともに、日本国際博覧会開催を契機として地方開催に目が向けられている近畿圏コンベンションの主催者等への訪問活動を強化し、長野市開催に向けた誘致を図る。
- (2) 地域の特色(歴史・文化・自然・環境)を活かしたユニークベニュー*を活用し、誘致の拡大に繋げる。
- (3) 誘致拡大のため、松本観光コンベンション協会や軽井沢観光協会等、関係する他団体との連携を図る。
- (4) 日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)を最大限活用し、誘致情報の収集、誘致に努める。

※ユニークベニュー

「特別な会場の意味」・美術館や博物館、歴史的建造物等で会議やレセプションを開くことで特別感や地域の特性等を演出できる会場のこと

- 2 「第二次長野市スポーツ推進計画」に基づき、長野市及び関係団体等と連携し、国際スポーツ大会や全国的スポーツ大会等の計画的な誘致を図る。

- (1) 国際スポーツ大会及び全国的規模のスポーツ大会に対する支援制度を活用し、新規大会の誘致や長野市での継続的な開催に繋げる。
なお、全日本大学軟式野球選手権大会については、長野市での開催が8年目を迎え定着しつつあることから、長野市開催の固定化へ向けた活動を積極的に推進する。
- (2) 各種スポーツ大会の事前合宿を誘致するため、長野市と連携し、情報の収集及び発信を行う。
- (3) 全国中学校スケート大会への継続した支援を行うとともに、オリンピック・パラリンピック開催都市としてのブランドを活かし、ウインタースポーツ競技の大会誘致に努める。

3 支援制度を活用し、新規合宿の誘致強化を図る。

- (1) 長野市への合宿開催を誘致するため、長野市東京事務所と連携し、首都圏の教育機関、旅行会社及び大学生協等へ誘致活動を展開する。
- (2) 高速交通網の利便性を活かし、北陸、中京及び近畿圏からの合宿誘致活動を行う。
- (3) 合宿支援制度を拡充し、合宿誘致を推進する。

4 日本政府観光局（JNTO）及び長野県等と連携し、ASEAN諸国及び台湾からのMICEを誘致するため、国内外で開催される招請事業や商談会で積極的な誘致活動を展開する。

- (1) 長野市及び北信濃の魅力や伝統文化をPRすることで、海外MICEの候補地としての知名度向上及び誘致推進を図る。
- (2) 海外MICE取扱旅行会社との連携を密にして、多様なニーズの的確な把握に努めるとともに、誘致推進を図る。

事業の概要

コンベンション事業費	予算額	前年度予算額	比較増減
	71,233 千円	69,271 千円	1,962 千円

1 コンベンション誘致事業

(1) コンベンション誘致活動

- 首都圏及び中京・近畿圏を中心にコンベンション主催者を訪問し、誘致活動を行う。
- 日本国際博覧会開催に伴い近畿圏で開催されているコンベンションが地方開催に移行されることが推測され、その代替開催地としての誘致活動を強化する。
- 東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、地方開催へ移行するコンベンションの主催者等への誘致活動を継続する。
- 高速交通網の利便性を北陸、中京及び近畿圏の大学及び旅行会社にPRし、合宿を誘致する。
- 長野県立大学をはじめとする高等教育機関、学会関係者及び関係団体との情報交換会等を実施し、人脈の構築とキーパーソンの発掘を行う。
- コンベンション主催者及び教育旅行関係者を招聘し、現地視察を行う。
- 国際MICEエキスポ※に参加し、コンベンション主催者と商談を行う。
- 「コンベンション総合ガイド」及び「長野市合宿ガイド」を活用し、情報発信を行う。
- コンベンション連絡協議会及び他都市コンベンション推進機関との連携強化を図る。
- 教育旅行の誘致強化へ向けた取り組みを展開する。

※ 国際MICEエキスポ

国際会議や企業ミーティング・インセンティブ旅行等について、日本への誘致或いは開催を計画し、具体的案件を保有している国内主催者との商談会の場として毎年2月に開催されるイベント。

2 コンベンション開催を促進するために行う各種支援事業

(1) コンベンション支援

- 長野市内での開催・宿泊を伴う会期が概ね2日以上かつ大会参加者60人以上のコンベンションに対する支援
 - ・ 歓迎看板等の設置
 - JR長野駅デジタルサイネージ及び大会開催会場
 - ・ コンベンション支援パンフレット等の提供
 - おいでなしてながの・グルメガイド・トートバッグ
 - ・ エクスカーションバスの運行

- バス2台まで
 - 参加者100人以上、会期2日間以上
 - ・シャトルバス（駅・会場・宿泊施設間）の運行
 - 参加者1,000人以上 運行経費上限50万円
 - 参加者200人以上 運行経費上限30万円
 - ・ポスター・ドアステッカー掲出（参加者1,000人以上）
 - タクシードアへの歓迎ステッカー掲出・商店街等への歓迎ポスター掲出
- 企業コンベンション（参加者60人以上）に対する支援
 - ・歓迎看板等の設置
 - JR長野駅デジタルサイネージ及び大会開催会場
 - ・コンベンション支援パンフレット等の提供
 - おいでなしてながの・グルメガイド・トートバッグ
 - ・アトラクションの提供
 - 木遣り・太鼓等（経費上限10万円以内）
 - ※参加者100人以上
 - ・エクスカージョンバスの運行
 - バス2台まで
 - ※参加者100人以上

（2）助成金及び支援金の交付

- 主催者に対する助成金及び支援金
 - ・コンベンション開催助成金
 - 長野市内開催の宿泊を伴うコンベンション主催者に対し、会場費（託児所含む）の半額を助成する。
 - ただし、参加者数の区分に応じた交付額を上限とし、いずれか低い額を交付する。
 - ・国際会議開催助成金
 - 長野市内開催の宿泊を伴う国際会議主催者に対し、海外から参加した人数に応じた助成金と会場使用料（託児所含む）の半額相当額を助成金として交付する。
 - ・スポーツ大会開催支援金
 - スポーツ大会主催者に対し、参加者数に応じた支援金を交付する。
 - なお、所定の要件を満たした場合、スポーツ大会参加者が負担したバスの夜間駐車料の一部を支援金として交付する。
 - ・合宿開催支援金
 - 長野市内での宿泊を伴う合宿主催者に対し、延べ宿泊者数に応じた支援金を交付する。
 - なお、所定の要件を満たした場合、合宿主催者が負担したバスの夜間駐車料の一部を支援金に加算し交付する。
 - ・企業コンベンション開催助成金
 - 企業が実施する長野市内での宿泊を伴う会議や研修に対し、会場費（託児所含む）の半額を助成する。
 - ただし、参加者数の区分に応じた交付額を上限とし、いずれか低い額を交付する。
- 旅行事業者に対する支援金
 - ・コンベンション等送客促進支援金
 - 長野市内開催の宿泊を伴うコンベンション等を企画・実施した旅行事業者に対し、送客促進支援金を交付する。

（3）コンベンション開催準備金貸付

長野市内で開催されるコンベンションに対し、主催者支援のためコンベンション開催準備金の貸付を行い、主催者の便宜を図ることによりコンベンション誘致を促進するもの。

具体的には主催者への貸付金を当法人が金融機関から借り入れ、利息及び手続き費用を当法人が負担し、主催者へ無利息で貸し付けを行う。

3 コンベンションに関する情報収集・情報発信

(1) コンベンションアンケート

- コンベンション主催者・参加者へのアンケート調査により、誘致活動・受け入れ体制の再検討を行う。
- コンベンションアンケート調査に基づく経済波及効果等の試算・公表を行う。

(2) 情報発信

- コンベンション誘致情報のデータベース管理により、情報共有化と誘致活動を推進する。
- 長野市のコンベンション、合宿及び観光情報等を当法人ホームページから発信する。
- 国際スポーツ合宿誘致のため、関連情報を発信する。
- 当法人ホームページ賛助会員専用ページのコンベンション開催等情報を随時更新することにより、賛助会員への的確な情報発信を行う。
- 海外からのMICE誘致に向け、当法人ホームページの英語版コンベンション誘致ページからの情報発信を行う。
- 機関紙「インフォームながの」を発行し、賛助会員、関係行政機関、大会主催者等に、事業活動報告及びコンベンション・観光に関する情報を提供する。(年3回発行)
- コンベンション開催予定状況調査によるコンベンションカレンダーを発行し、コンベンションの告知及びイベント情報の紹介を行う。また、賛助会員に対しては、より早く情報の発信を行う。
- MICE業界誌、県人会誌等への広告掲載により、大会主催者等に向け長野市でのコンベンション開催をPRする。
- 大会プログラム等への広告掲載を行い、大会参加者に向けて長野市のPRを行うとともに、大会主催者に対して長野市での継続開催を促進する。

(3) 情報収集

- 観光庁、JNTO、JCCB、旅行会社、観光事業者が主催する各種会議・シンポジウム・セミナー等へ参加する。
- 中部コンベンション連絡協議会への参加により、関連組織との協調を図る。
- ASEAN諸国及び台湾の旅行会社、メディア等を訪問し、情報の収集に努める。
- 一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)を活用し、長野市のスポーツコミッション事業※に有益な情報の収集に努める。

※ スポーツコミッション事業

スポーツを活用したまちづくりや地域づくりを推進することで地域の活性化を図る事業

4 「おもてなしの心」の醸成を図る事業

セミナー及び情報交換会の開催により、「市民のおもてなしの心」の醸成、及び賛助会員間の情報交換や連携推進を図る。

Ⅱ 観光振興事業

重点目標

- 1 「長野市観光振興計画」に基づく事業の実施
- 2 北陸新幹線金沢延伸以降に実施された大型誘客イベントや観光キャンペーン等の成果を活用した長野市ならではの魅力発信と誘客推進
- 3 東京オリンピック・パラリンピックの訪日外国人旅行者（インバウンド）の誘客促進
- 4 広域観光の推進及び他都市との連携

重点事業

- 1 「長野市観光振興計画」に基づき、善光寺表参道、戸隠、松代を誘客の起点とし、市内の周遊と滞在時間の延長を図り、市内の宿泊拡大に繋げる。また、令和3年開催の「善光寺前立本尊御開帳」ならびに「戸隠神社式年大祭」を軸にした誘客を図る。

- (1) 市内宿泊者数の増加に繋げるため、観光事業者等と連携して、長野の「食」や「伝統文化」、「自然」等を堪能できる観光コンテンツの充実を図り、観光情報の発信を強化する。
- (2) 各地域の観光ボランティアや観光事業者との連携を強化し、長野市でしか味わえない独自の楽しみ方を提案する「散策・体験プログラム」により、滞在時間の延長を図る。
- (3) 誘客の起点とする善光寺表参道、戸隠、松代における観光コンテンツの充実を図るとともに、中山間地域をはじめとする周辺地域の魅力ある観光素材を発信し、観光客の周遊促進と滞在時間の延長に繋げる。
- (4) 「善光寺前立本尊御開帳」、「戸隠神社式年大祭」について、奉賛会ほか関係団体と連携して国内外に向けたPRを行う。

- 2 北陸新幹線金沢延伸以降に実施した大型誘客事業等における成果を活用し、長野市ならではの魅力を全国に発信し、誘客拡大を図る。

- (1) 信州DC[※]等で実施した魅力あるコンテンツを磨き上げ、継続した情報発信により誘客を図る。
- (2) 善光寺や戸隠での宿坊体験をはじめ、朝と夜の魅力等、長野市ならではの観光情報の発信を強化する。
- (3) まち歩きガイド団体と連携し、市内各地の自然や文化等の魅力を活かした「まち歩き観光」を促進するとともに、再度来訪したくなる仕組みの構築により、長野市への誘客を図る。

※ 信州DC（信州デスティネーションキャンペーン）

JRグループ（6社）と地方自治体、観光関係者等が一体となって実施する大型観光キャンペーンのことで、平成29年7月～9月、「健康」「美しさ」の源『山岳高原』をメインテーマとし長野県で実施された。（平成28年：プレDC、平成30年：アフターDC）

- 3 東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、多くのインバウンドの方々に長野市を訪れていただけるよう、長野県等との連携を強化し、誘客拡大を図る。

- (1) 外国人に広く知られている「スノーモンキー」等のキラーコンテンツ[※]を活用し、台湾及びASEAN諸国からの更なる誘客を図るとともに、近年、個人旅行が増えている中国や欧米豪に対しても積極的に情報を発信する。
- (2) 台湾、ASEAN諸国や欧米で開催される旅行博への出展及び現地旅行会社等への誘客活動を強化する。

- (3) インバウンドに対応したホームページ及び SNS を活用し、情報発信を強化する。
- (4) J N T O や長野県が主催する海外での商談会や旅行博等へ積極的に出展し、誘客拡大を図る。
- (5) 観光を主目的としたスキーヤー等、新たな需要を見出すとともに、滞在型観光を推進する。

※ キラーコンテンツ

ある特定の分野を普及させるきっかけとなるような、圧倒的な魅力を持った情報やサービス、製品のことであり、観光分野においては、旅行先決定の決め手となり得るものをいう。

4 北信濃観光連盟を中心とした広域観光の推進及び他都市と連携した効果的な情報発信を図る。

- (1) 長野市が J R 長野駅新幹線改札口の正面に設置したデジタルサイネージ（デジタル表示パネルを利用した電子看板）を利用し、長野市及び北信濃の観光プロモーション映像等を放映することで、効果的な情報発信を図る。
- (2) 北信濃観光連盟、長野県及び観光事業者との協働により、各地域の観光素材を活かした企画を旅行会社へ提案し、広域での滞在型観光を推進する。
- (3) 長野市と近隣 8 市町村で展開する 長野地域連携中枢都市圏 ※ エリア内の観光素材の掘り起こしを行い、広域観光の推進を図る。
- (4) 上越市や松本市、上田市、軽井沢町等、県内外の他市町村と連携し、観光ルートを模索するとともに、国内外に向けて広く情報を発信する。

※ 長野地域連携中枢都市圏

国が進める連携中枢都市圏構想に基づき、長野市が近隣 2 市 4 町 2 村（須坂市・千曲市・坂城町・小布施町・高山村・信濃町・小川村・飯綱町）と連携して構成する圏域（長野地域）。

圏域の様々な課題に対し、合併によらず、スクラムを組んで「お互いの強みを活かし、弱みを補う」ことにより、持続可能な地域社会を創生するとともに、圏域全体を活性化し発展させていくことを目的とし、具体的な取組等をまとめた「長野地域スクラムビジョン」（長野地域連携中枢都市圏ビジョン）が平成 28 年 3 月に策定されている。

事業の概要

観光振興事業費	予 算 額	前年度予算額	比較増減
	179,363 千円	160,920 千円	18,443 千円

1 観光宣伝事業

- 長野市内の歴史・文化・自然等の観光資源を活用し、長野ならではの魅力を伝え、滞在時間延長に繋がる積極的な P R 活動を行う。
- 高速交通網の利便性を活用し、長野市への誘客拡大を図るため、北陸、中京及び近畿圏での情報発信を強化する。
- 信州 D C 等の成果を活用し、長野市と近隣エリア内の観光素材を効果的に発信することにより、長野市への誘客推進を図る。
- 県、市、周辺市町村等の関係機関・団体と連携した観光キャンペーン等を実施し、あらゆる機会を通じて観光宣伝に努める。
- 北信濃観光連盟との連携により、パンフレット・ポスター・ホームページ及びデジタルサイネージを活用し、エリア内の情報を発信する。
- 全国の主要駅及び県外観光案内所等での観光ポスター等の掲出により、情報の発信を行う。
- 広告媒体（テレビ、新聞、雑誌、インターネット等）の活用にあたっては、ターゲットを明確にし、訴求効果の高い媒体へ情報を発信する。
- メディア関係者（ブロガー等の SNS 発信者等）を招請し、「長野市」の知名度向上を図る。
- 外国語（英語・中国語等）版観光パンフレット等を作成し、長野市の基本的な観光情報を海外に発信する。
- インバウンドに対応したホームページ及び SNS を活用して情報を発信する。

2 誘客推進事業

- 旅行会社の特性に合致した具体的な観光素材の提供を行い、効果的な誘客を図る。
- 旅行会社から企画提案のあった旅行商品を対象に、広告宣伝費支援金及び送客促進支援金を交付する。また、東京オリンピック期間中における長野市内への宿泊を伴う旅行商品の企画推進のため、新たな支援金の交付を行う。
- 松代藩文化施設等における旅行会社とのクーポン券精算業務を行う。
- 海外メディア関係者やエージェント等の取材受け入れを行い、オリンピック開催都市「NAGANO」の知名度の向上と誘客を図る。
- 台湾及びタイを中心としたASEAN諸国に加え、欧米豪並びに中国の旅行会社に対して、「スノーモンキー」や「Hakuba Valley」をキーワードとしながら、長野市内の宿泊拡大に繋がるよう、善光寺表参道、戸隠、松代等の歴史や伝統文化、各種体験、イベント等を組み込んだ商品の提案を行い、誘客を図る。
- 海外からの個人旅行受け入れ態勢の整備を図り、誘客の拡大に努める。
とりわけ、今後増加が見込まれる中国からのスキー客の受け入れ態勢については、近隣の主要スノーエリアと連携した環境整備を進める。
- 長野県内及び首都圏に長期滞在している外国人に対して、滞在期間中に長野市を訪れていただくため、ホームページ等を活用したショートトリップの提案を行い、誘客を図る。
- JNTOや長野県が主催する海外での商談会や旅行博へ積極的に出展し、誘客を図る。

3 観光客滞在時間延長事業

- 善光寺表参道、戸隠、松代を起点に市内の観光スポットの周遊を図り、滞在時間の延長に繋げる。
- 長野市のガイドブック及びガイドマップを市内宿泊施設等に設置することにより、観光客の周遊促進と滞在時間の延長に繋げる。
- 市内のガイド団体と連携し、「善光寺前立本尊御開帳」を見据え、地域の歴史や文化を堪能できる「まち歩き観光」の充実により、滞在時間の延長及び再来訪に繋げる。
- 市民を対象とした講座を開催し、「おもてなしの心」の醸成を図る。
- 市内のバリアフリー情報を集約し、観光客の利便の増進を図る。

4 新たな観光の魅力創出事業

- 長野ならではの素材を組み込んだ着地型旅行商品を企画・造成し、長野市内への誘客拡大を図る。
- 北信濃観光連盟、長野県及び長野県観光機構等と連携し、旅行商談会や観光キャンペーンにおいて、地域に根差した伝統食に加え、訴求効果の大きい高品質な果物や日本酒、ワイン等の“食”をはじめとする魅力ある観光素材を提案することにより、広域観光を推進し、誘客拡大を図る。
- ながの祇園祭（屋台巡行）、長野びんずる、飯縄火まつり、長野えびす講煙火大会、長野灯明まつり等各種観光行事やイベント・まつりの支援を行い、新たな誘客を図る。
- 観光ボランティア団体、各種体験受け入れ団体や新たなコンテンツツーリズム推進団体との連携強化を図る。

5 観光案内施設の運営

- 長野市観光情報センターにおいて、市内のみならず県内の細やかな観光情報を提供することにより、来訪客の満足度向上に努める。
- 当日の宿泊手配等を行い、観光客の利便性向上を図る。
- 長野市の魅力を活かし、地域の自然や文化を堪能することができる「まち歩き観光」の促進に努める。
- 職員研修を実施し、案内力の強化と職員の資質向上を図る。

6 フィルムコミッション事業

- 長野市の映像露出の機会を増やし、知名度や都市ブランド力の向上を図るため、映画、ドラマ、CM、アニメーション等のロケ撮影の支援、広報を行う。
- 映像制作者への訪問活動を通じて、長野市由来のエピソード等を提案することにより、長野市を直接の舞台とする作品の誘致を目指す。
- 監督、制作会社スタッフを長野市へ招聘することにより、映画、テレビドラマ等の誘致を図る。
- ロケ撮影が行われた地元との協働によるロケ地ツアー等の実施やロケ地マップ等の作成配布により、新たな観光客層の獲得を図る。
- ホームページの掲載内容を充実し、ロケ撮影候補地に関する情報提供の強化を図る。
- ジャパン・フィルムコミッション及び信州フィルムコミッションネットワーク・近隣市町村と連携したロケ撮影の情報共有を図り、誘致に努める。

Ⅲ 東京事務所

1 コンベンション事業

重点目標

- 1 新規コンベンションの誘致促進
- 2 国際スポーツ大会及び全国的スポーツ大会の誘致促進
- 3 大学やサークル等の合宿の誘致促進
- 4 企業等が行うMICE等諸活動の誘致促進

重点事業

- 1 新規コンベンションの誘致を目指し、中小規模コンベンションに的を絞った誘致活動を実施するとともに、東京オリンピック・パラリンピック開催により地方開催へ移行されるコンベンションについて、令和3年度以降の開催計画等に関する情報収集と誘致活動を展開する。
 - (1) 首都圏の協会・連盟・学会・旅行会社、企業・組織等に対する積極的な情報発信や関係構築による誘致活動を実施する。
 - (2) 地区・ブロック大会や関連する研修・セミナー等を含めた国内コンベンションの誘致活動を積極的に行い、将来の全国大会等の大規模コンベンションへの誘致に繋げる。
 - (3) 東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に地方開催へ移行される各種コンベンションの情報収集に努め、主催者等に長野の特色を生かしたユニークベニュー等をアピールし、令和3年度以降の開催を積極的に誘致する。
- 2 国際スポーツ大会や全国的スポーツ大会等の大規模スポーツコンベンションの誘致へ向けた活動を強化する。
 - (1) スポーツ大会の開催支援金制度を活用して、競技関連団体、各種スポーツ大会主催者等への誘致活動を行う。
- 3 支援制度を活用し、新規合宿の誘致を図る。
 - (1) 「長野市合宿ガイド」を効果的に使い、夏季ピーク以外の合宿を重点的に誘致するため、長野市東京事務所と連携し、首都圏の教育関係機関、旅行会社等を中心とした学生マーケットへの積極的な誘致活動を展開する。
- 4 首都圏に拠点をもつ企業が行う諸活動（インセンティブ、会議、人材育成、組織力強化等）をターゲットとした誘致活動をコンベンション部と連携して展開する。
 - (1) 旅行会社及び企業からの情報収集、情報交換を通じて、長野ならではの素材やインフラを活用した企画提案を行うとともに、企業コンベンション送客促進支援金制度の積極的な活用を行う。
 - (2) 法人営業やインセンティブ旅行等取扱旅行会社（首都圏の窓口）との連携を密にし、国内外の各種会議やインセンティブ旅行の主催者に開催地又は旅行先として長野市が選ばれるための条件（ニーズ）に関する情報収集を行い、誘致を促進する。

2 観光振興事業

重点目標

- 1 「長野市観光振興計画」に基づく長野市への誘客促進及びニューツーリズム※の創出へ向けた取り組みの推進
- 2 インバウンドの誘客促進

※ ニューツーリズム

これまで観光資源としては気付かれていなかったような地域固有の資源を新たに活用し、体験型・交流型の要素を取り入れた旅行の形態で、活用する資源に応じて、エコツーリズム、グリーンツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光等が挙げられ、旅行商品化の際に地域の特性を活かしやすいことから、地域活性化に繋がるものと期待されている。

重点事業

- 1 「長野市観光振興計画」に基づく誘客事業を推進するため、首都圏エリアの旅行会社や関係組織、メディア等への情報発信を強化し、誘客拡大を推進するとともに、ニューツーリズムの創出へ向けた取り組みを行う。
 - (1) 地元産の日本酒を地域の新たな魅力を創出する優良な観光資源とすべく、地元関係者と一体となったプロジェクトを推進する。
併せて、従来からある長野の「食」や「伝統文化」「自然」等の観光コンテンツを活用し、市内周遊の起点とされる善光寺、戸隠、松代を中心とした観光情報の発信を強化することで、誘客事業を推進する。
 - (2) 「まち歩き観光」及び「散策・体験プログラム」の活用により、長野市でしか味わえない独自の楽しみ方を首都圏旅行会社等へ効果的に企画提案し、旅行者の当地への来訪意欲を増幅させるとともに、観光客の地域内での滞在時間の延長を図る。
 - (3) これまで埋もれていた観光素材の資源化を、中央省庁や県等とも連携しながら支援し、新たな来訪者の創出とリピーター及び滞在時間・地域内消費の拡大を目指す。
- 2 東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、より多くのインバウンドが長野市に訪れるよう、国や関係機関に対する情報発信を強化し誘客促進を図る。
 - (1) ターゲットとなる外国人層が関心を示す領域（例：食、文化等）において、長野で新たなツーリズムの素材やテーマの創出を図るとともに、海外での認知度が高い「スノーモンキー」等のキラーコンテンツを絡めた情報を、首都圏の訪日旅行を取り扱う旅行会社やメディア、JNTOをはじめとする政府機関、関係省庁などに発信し、誘客推進を図る。
 - (2) 観光庁をはじめとした中央省庁及びJNTOや各国の観光局等からの幅広い情報収集活動を行い、マーケティングを意識した取り組みを推進することにより、長野市への誘客推進を図る。
 - (3) インバウンドマーケットに対応した外部のメディアを活用し、情報発信を強化する。

※ 長野市東京事務所との連携事業の推進

- ① 中央省庁や関係機関・組織、民間企業とのコミュニケーションの強化
- ② 都内で行われる観光・物産イベント等への積極的な参加
- ③ 「長野県人会連合会」との連携の強化